

# 山中で仕事と

名人 大村 雄一郎・静岡県榛原郡川根本町

聞き手 松村 温人・千葉県千葉敬愛高等学校2年

## ■自己紹介

大村雄一郎です。生まれが昭和29年11月18日です。

僕がここで育ったころは、おじいさん、おばあさん、お父さんお母さんで、子供が4人の8人家族。僕のすぐ下が女で、弟が2人の計4人きょうだい。で、僕が昭和56年ごろに結婚したのかな。で、女房と、子供4人がいる。本川根町で生まれてね、大学の4年間は東京に住んでたけど、あとはずっとここ。

大学を出てきてからね、林業の専門学校へ1年間行って、そのあと家に入った。

## ■狩猟の道へと

林業の専門学校行って帰ってきて、親父がずっと鉄砲やってたことは知ってたんだけどさ、隣に僕より2つ年下の若者がいたんだけど、彼が1

年前くらいに免許を取ったんだよ。んで、鉄砲やらないかと誘われて、じゃあ俺も取ってみようかなって感じで。

## ■初めての喜び

若い衆と2人でね、猟の解禁の日だっけよ。

で、彼が紀州犬を持ってて、2人でイノシシの猟に行っただっけよ。ほいで、山登っててさ、イノシシの食みがあつてね。で、じゃあここでやってみるかみたいな感じで。

で、俺にここで待っててくれよって言って、犬でイノシシを追い出す人を「勢子」、待ってる人は「待ち」つつうんだけどさ、それを2人でやって。で、そのうちに犬が鳴き出して、近づいてきたと思ったら小さいイノシシが飛んできて、それを撃っただよ。ほいで初めてだったもんでやったやつ。と言つて2人で喜んで、ワタ（内臓）だけ抜いて家まで持って帰ってきて、庭で解体をやるうとしたんだけど、やり方が分からなくて、庭じゃあ、っ

てことになって、キャンプ場へ持って行って、キャンプ場のこの炊事場の軒下で近くのおじさんにやってもらった。

## ■鹿を追う犬イノシシを追う犬

グループ猟はね、犬が獲物を追い出して周りを囲む猟のやり方なだけどき、基本的にはイノシシをやる犬はイノシシをやるだけどき、鹿をやる犬というのはイノシシをやるんだよね。なぜかって言うとき、犬はイノシシを怖いだよ。

結局犬もイノシシにやられちゃうこともあるんだで、イノシシは向かってくるもので、鹿は逃げるもので、鹿はもう逃げるだけでもんでき。

今、自分で飼ってる犬にイノシシをやる犬がいなくても、イノシシをやるうとしても鹿の臭いが至る所にあるもので、鹿の方についてちゃうでな。

## ■鹿の猟

イノシシの猟の時は、食み跡とかから絞ってって犬を放すんだけど、鹿の場合はイノシシの場合と違って食み跡とか関係なく犬を連れて登ってって放すよね。基本的にはあしがあればそこから、行かなかったら犬と一緒にいそうなところに歩いていくんだけど。

そしたら、どこに行くかは分からんけども、鹿ってのは川の水に、水中に入っておいを消すって習性があるって、最終的に川の落ちてきそうなところに「待ち」が何人かいるんだけど、山ん中でもどうかすると飛んできそうな場所に。

川で撃つたらそこでやっちゃうんだけど、山で獲った場合は血抜きだけして、道路まで下げちゃって、川まで持ってってワタ抜きする。食べない部分は埋めちゃう。場所によっては石を積んだだけとか。

もう今、至る所に鹿がいるもので、犬放してればすぐ追いたしてくれらるもんで。昔は獲物が少なかったもんで、ものすごいシビアで。昔は無線機があったんだけど、今はなんかGPSがあるじゃん。だもんで、猟の仕方が変わっちゃったね、今と昔では。

昔は、獲物が獲れない時も多々あったりして、だから獲れるとそれはすごいうれしいし、なんていうか授かりもんみたいな感じだったかな。昔は1日歩いても獲れなかったりして。だけど今は鹿が増えちゃって、すぐそこにいるもんで、1頭獲れなくてもどっかでは獲れるみたい。そんな、簡単な、粗末にするなんてことはないんだけど、昔ほど猟の面白味が無いつていうのかな。

## ■猟友

多いときは10人くらいいたのかな。で、だんだんと年を取って抜けてく。若い人が入ってくるかと言えばなかなか入ってこないんだけど。今は5人くらいのグループだけど、その中でも猟をやるのは3人とか4人でやる。

## ■一犬二足三鉄砲

昔はね、一犬二足三鉄砲つって、犬が良くなければ寝ている獲物を追い出してくんなくて、犬がとにかく大事、んで二足つてのは、人間もとにかく歩いて獲物のいる所まで歩いていかないとだもんで、足が強くなくちゃダメ、で、鉄砲つていうのはそこまで重視してないってこつちゃ。

まあ、獲物は待ってる自分の方へ寄ってくるもんで、なるべく近く寄せでドンと撃てばいいもんで、一犬二足三鉄砲つてのは昔の人がよく言うだつてよ。

犬が良くなければ獲物は獲れないし、足が良くなきゃ、歩き回らないとやっぱり獲物は獲れないし。

そういうことをよく聞かされたけんね、人間じゃ獲物を追い出せないもんで。

## ■変わっていく

極端に鹿が増えてきたのはここ10年、15年くらいで、鹿はね、昔はこの辺にいないくて、奥山へ行つて獲ってきた。

そのうちに、国有林の植林した苗木が食べられちゃうよつてことで 国が営林署から頼まれてね。で、国有林の有害駆除が始まった。

20年、15年前まで続いたのかな、でも、国有林の方で被害があるから町の猟友会の方へ依頼が来てただけで、木を伐採しなくなり、植林をしなくなつたので、依頼が無くなつたのかな。

で、そうこうしてうちに民有林の中で鹿があちこちに増えてきて、だんだん郷にも下がってきて、郷の方の民有林の方にも被害が増えてつた。それで、被害にあった人が農協とか町に被害があつたよつてことで猟期以外にも有害鳥獣捕獲つていつて依頼が来た。

本猟期は、昔は11月15日から2月15日までの3か月間だけだつただけで、鹿は12月1日から1月31日まで2カ月しかないつてよ、短かつた、猟期が。で、メスは獲っちゃいけないつてことで決まりがあつただけけんね。

今の猟期は、11月1日から3月15日までだけど、ほんとの猟期つていうのは、11月15日から2月15日。ほいでその11月の1日から11月15日と、2月15日から3月15日つていうのは、鹿とイノシシだけの特別なことになつただけけんさ。

今は増えすぎちゃつたもんで、オスよりもメスのほうを獲つてくださいますように県でも言つてるだけどね。

車で走つてると、鹿がいたりしてさ、そいでドンつて獲れるくらいには鹿が増えてる。

## ■引き金を引くということ

やっぱり引き金を引く瞬間にとにかく気を付ける。事故が起らないように。

まあ、待った無しだもんで、引き金を引くつていうのは。だもんで、矢先を十分に見る、確認するつていうことは大切にしてるつちゅうか気を付けてる。

## ■変化するもの

やり始めたときは嫌つていうか、複雑な気持ちがあつたもんでさ、こういうところに住んでね、サルにシイタケ取られたり、栗取られとか、鹿に苗食べられたりとかね、野菜食べられたり。そうするとやっぱり憎しみみたいなものもあるだよね。ただ、獲つたからには粗末にせず綺麗に食べてやるみたいな、それは大切にしてる。

## ■狩りに使う道具

これ（次頁写真）が猟に使うスパイク。スパイクがあるのは悪場とか通るときとかに足元しつかりしてないと危ないから。これは俺の親父が使つたノコギリと、剣鉦つていうんだけど獲つた獲物をばらすために使うかな、あとは急に棒が欲しかったり角を取つたりするときに使うな。ノコギリは鑢で研いどるけんさ。

これ（次頁写真）が犬につけるGPS。今うちのグループにはGPSを7つ持つてるもんで。今うちにあるのが2つだな、2頭につけようつてんで。で、今うちのグループで犬が7匹いるか。で、GPSの画面の中の青い線は俺が動いた跡。

で、チョッキはグループでそろえたんだけど、基本オレンジのチョッキ

を猟の免許を取ると猟友会から支給されるんだけどよ、それがちょっとね大きくて。袴みたいな感じで着にくくて、自分たちのグループでちょうど体に合うように、クラブで市販のチョッキを買いそろえた。



GPS



スパイク



チョッキ



ノコギリと剣鉋

## ■ 猟犬

犬はそこにいるんだけどさ、ポチ。ポチだけどポーって呼んでる。愛称だ愛称。

これは今8歳か9歳くらい。もうあとちょっとしか使えない。もうあと2年くらいしか。もう年だよ。

## ■ 犬の持ち運び

犬はゲージに入れて持ち運ぶ。山に入っているときは紐で縛って入っていく。これに入れてつぎ、んで捕まえたらゲージの中に入れてく。基本やる犬が3頭いけば鹿の場合は1頭ずつ放す。俺が3匹つないで山の中に犬を持ってって、1頭ずつ放してバーンって行って、獲ったよってなったら次の犬を放す。猟に出かけるときは軽トラに積んで、後ろの荷台に。基本的には仕事の道具なんかは全部下ろしちゃって犬だけ連れてく。猟銃は自分の横に。

鹿獲った後はさ、一応GPSつけてるもんで大体鹿を撃つとそこについてくるもんで撃つたところに、そこでひもでつないで犬を回収する。獲物が獲れない時はGPSで探して、空薬莖を笛みたいにして吹いて、呼んで捕まえるんだけど。獲物を追ってって獲れるときは犬が必ず鹿についてく



ゲージ



ポチ



もんで、そこで縛る。

## ■おり罠

この頃ね、罠の免許を取ったんだけど、家のすぐそばまで鹿が来るもんで、鹿とかイノシシとかサルが。で、やっぱりそれだけは自分で守っていかなくちゃいけないかなって感じで、いまは特にあの栗の木にサルがついて、罠をかければいいんだけどね。

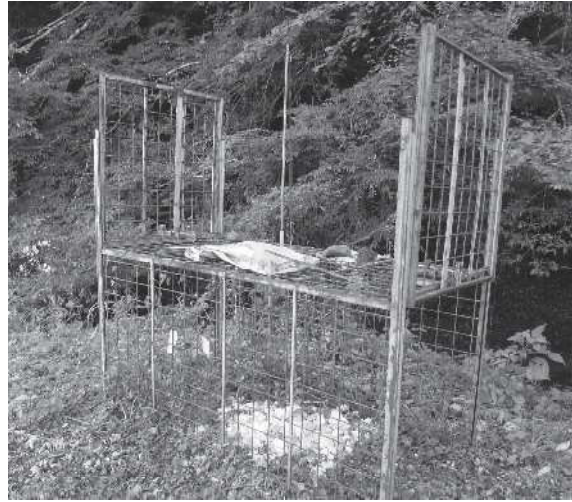
この糸に触れると、留め具が外れて、引っ張ってる扉が落ちる。餌は、これ麴に塩をまいてあるな。

今、有害鳥獣捕獲が出てるもんで、これかけといてもいいよって。基本的には檻とかはね、罠にかかっているのを銃で撃ってそれから取り出す。あとは普通の猟みたいになるんだけどさ。

これは片開きのやつだけど両開きのやつもある。どっちも糸に触れるとこれも留め具がはずれるからドアがストンと落ちる。

## ■やってみなくちゃ分からない

罠はやってみないとわからんだけんさ、イノシシ猟とシカ猟が違うっちゃうんはさつき言ったように、犬がな、イノシシにやられちゃうぐらいなもんで、だからイノシシ猟はね、面白いよ、面白いっちゃうかね、ここ



両開きのおり罠

ら辺に食みがあつて、周りを見切るだよね。

で、そこから、食みから犬を出してやるけんさ。犬を放したら大体5分とかそこらで勝負がつくんだけどさ。まあ、勝負がつくっちゃうかき、寝てるだよ、夜行性だもんで、イノシシが。

で、寝てる場所で起こしに行つて、犬が。そこでわんわん鳴いて、イノシシを止めてる時があるんだよ。イノシシが気が付いてるんだけど起きないっていうか。寝屋っていうさ寝てる場所で。ほんで寝屋打ちとか言つてさ、犬掛がそこで撃つんだけど、人間と犬との駆け引き？ イノシシとの。で、イノシシが寝るのもさ、明るところで寝てるのもあるけど、やっぱり、藪のところで寝てることもあるで。どこにいるかわからないっちゃうかき、で、それを追い出して、それが「待ち」にかかったりすると、「待ち」で撃つたりもするんだけど、犬が良ければイノシシ獲れるんだけどさ。

## ■川根本町

こういう町、難しいね。まあ、すごくこういう山間地で、すごく住みやすいところだと思ふんだけど、ただ、ここに住んでる人間はね、仕事がないっていうか。自分からやりたくないことには、特に。

昔はそれこそ林業とかの一次産業が盛んで、みんな生計が成り立ってたんだけど、一次産業が段々すたれてきちゃつて、だもんで。

あと、やっぱ若い人がねどんどん出ていっちゃうもんで。まあでも今は結構若い人も頑張つてるとはわかつてるんで、まあ観光に結構ね、力を入れてる。

でもコロナになっちゃったもんだからさ。コロナの前はね、大鉄（大井川鐵道）で「きかんしゃトーマス」なんか走らせてくれてすごいお客さんが来てくれて。今もなんかね、そういうイベントをやってくれて、大鉄が。ただコロナでね、なかなかあれなんだけど。

## 【聞き書きを終えての感想】



名人に会うまでは、名人がどんな人か分からず。実際に会って少し会話するまでとても緊張していました。担当の梶山さんから優しい人だよ、と言われても緊張は収まらず。逆に緊張のし過ぎで訳の分からないことを言うのではないかとドキドキしていました。実際にあってもすぐに緊張が解けるということはなく。家に上がらせていただいて話が始まるまで、家の外を見ながらいい景色だな、水の流れてる音がするから近くに川があるのかな、なんてとりとめのないことを考えながら。ただ、始まってしまえばといった感じで始まってから一気に緊張が解けました。

梶山さんから頂いたプロフィールの写真を見たときは、ちょっと怖そうだなと思っていましたが実際に話すと気さくで優しい方で、終わるころには次の取材がとても楽しみになっていました。

書き起こしは、とても大変だったけれど、書き起こしているうちに取材の日のことを思い出せて、楽しくもありました。



### profile

**大村 雄一郎**

おおむらゆういちろう

昭和 29 年 11 月 18 日・68 歳

職業：林業、茶業、猟師

【略歴】中学生まで実家住、高校に上がると家から離れた高校に進学、高校時代は高校付近に下宿しながら3年間学び、大学は東京の日本大学へ。その後1年林業の学校で学び、5、6年働き、実家へ戻り家業の林業と茶業を継いでからは川根本町に在住。また、昭和56年ごろに猟免許の獲得。現在は、茶業と林業の傍ら、狩猟解禁期間には鹿を獲っている。

これでコロナが収まればもともとね観光客が来てくれていろんなそういう仕事かね、出てくるんじゃないかと思うだけーな。

### ■狩猟は…

狩猟が解禁されてる3か月くらい、今は猟期がちょっと伸びたけど、頑張ってる楽しんでいるかな。

趣味だもんで。でも、昔と今と感じが変わってきてるだけんさ。昔はほんとに興味って感じで、11月15日が解禁なんだけど、その日が本当に待ち遠しいみたいな感覚で、11月15日は必ず猟にみたいなことだったんだけど、今は何ちゅうのかな、昔は獲物もそんなにいなくて、獲れたら喜んでたんだけど、今は、獲物が増えちゃって、動物被害もあるもんで、ちょっと昔と変わってきたかな。

生活に被害があつてね、野菜とかやられたりシイタケとか食べられたり、だもんで、自分たちの生活を守ってかなくちゃいけないってなってきたんだ。狩猟自体がそういう風に、昔は楽しみだったけど今はそうじゃなくて、獲物から作物を食べられないっていうように、守っていかなくちゃいけないってことで狩猟をやつてるような感じもあります。

〔取材日〕2022年9月11日